上京
史蹟と文化

2012 VOL.43

美を語る（びをかたる）

幽玄の美を求めて——徳岡神泉

美術史家
加藤類子

この六月に発売された記念切手シートなのでご記憶の方もあろうと思いますが、東京国立近代美術館六十周年・京都国立近代美術館開館五十周年記念と銘打って、近代日本の画家による日本画、油彩画九点が選ばれました。その中の一点に、京都国立近代美術館所蔵の〈後苑雨後（こうえんうご）〉も選ばれました。

雨の上がったばかりの苑庭（えんてい）の朝のひとときです。もう、盛りを過ぎて花弁を散らし始めた白い一株の牡丹、その花壇の端に羽繕（はづくろ）いをする一羽の土鳩（どばと）など、晩春の情趣がこの作品のモティーフであることがわかります。

この作品は昭和二年（一九二七）に制作され、第八回帝国美術院展（帝展）に出品されました。大正十二年（一九二三）九月に関東一円を襲った大震災以降、社会の変動も相まって、美術界に流行した長閑（のどか）な農村趣味や社会の底辺に苦しむ人々への関心は次第に退潮して、伝統的な大和絵や、中国南宋時代の宮廷画院のスタイルであった院体花鳥画を研究し、その世界を自らのスタイルに取り入れようとする画家が主流となってゆきました。時代は第二次世界大戦へと崩れ込んでゆく動乱の時代となりましたが、絵画、ことに日本画はむしろ、動から静へと作調を移していったのです。

神泉はこの作品の少し前、平安時代の密教仏画の世界と院体花鳥画の世界を同時に追求したような小品〈芥子（けし）〉（大正十三年）を描いていますが、そこにはすでに、この時代の新しい動向が反映していたと言うべきでしょう。

先にも述べましたが、〈後苑雨後〉は昭和二年の第八回帝展に出品された作品です。前年の第七回帝展に〈蓮池〉を出品して特選となった神泉は画壇に認められ、幾分ゆとりも感じていたことと思われますが、題材や主題に細心の注意を払う生来の性格から、テーマと決めた牡丹の花を求めて、ほうぼうを歩きました。京都の周辺には、昔も今も牡丹の名園が多くあります。気に入った花がなかなか見つからず、短い牡丹の季も過ぎ去ろうとしていました。そんな折、ある人が信濃の善光寺にいい牡丹があると教えてくれました。季節の歩みの遅い信州のこと、まだ大丈夫だろうと、押っ取り刀で出掛けて行ったのは、言うまでもありません。

善光寺の後苑に咲いていた牡丹は、神泉の期待を裏切らないものでした。その歓びを、神泉は次のように語っています。

> 牡丹を描きたいと思い京都でいろいろ写生してみましたが、どうもものたりないところがあってうまく出来ませんでした。たまたま教えてくれる人があって信濃の善光寺にいい牡丹があると聞き、行ってみました。枝ぶりが古朴（こぼく）単純で純白の花は気品があり、華やかでないところが気に入り描きあげたものです。

「華やかでないところが気に入った」とは、後の神泉を彷彿させる言葉ですが、神泉の芸術が高く評価されるのは、さらに二十数年後の、太平洋戦争後の昭和二十年代半ばのこととなります。

京都市立美術工芸学校、同絵画専門学校で学んだ神泉は、江戸中期の円山応挙以来の写生画の伝統を、その伝統を継ぐ多くの実技の先生たちによって、ま

後苑雨後　徳岡神泉　1927（昭和2）年　京都国立近代美術館蔵

自分にはそれが単的で一切雑物を排除した一画面として目にうつった。ただそれのみを、心の眼で見ている気持で見つめ、葉とか茎とか部分的な形を忘れて、深遠の彼岸に到達した境地を追求しようとした作品です。

と、この作品について作者自身は語りますが、これ以降、自作を語る神泉の言葉は、「心の眼」、「彼岸に輝く寂光」「宇宙のあらゆるものの凝縮」など、内観性の強いものになってゆきます。

〈池〉もそうですが、この時期の神泉の作品の多くは、添景などを極度に排除して、対象そのものを深く凝視するだけではなく、対象の内部の奥底から輝き出してくるもの、その境地を捉えようと、きわめて凝縮度の高いものになっています。このような神泉の作風は、昭和三十年代の評論界では、能の幽玄美に通ずるものとして、〝ユーゲニズム〟と呼ばれました。

谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』を引くまでもなく、日本の文化は陰翳に富み、そこに美を見出してきました。特に京の町は、他の大都市よりもはるかに陰翳に富んでいます。周囲を山に囲まれ、市中にも神社や寺院、離宮などの点在する環境も、その一因でしょう。

徳岡神泉は離宮二条城に近い上京区（現・中京区）神泉苑町に明治二十九年（一八九六）年に生まれ、少年時代をそこで過ごしていますが、当時の二条城周辺は、市中とはいえ現在よりも寂しいところで、少年時代の神泉は、離宮の高い樹々の梢に、しばしば超自然的な何かの存在を感じていたと言います。そのようなものの存在に敏感な少年だったに相違はありませんが、長じて画家を志してからも、この感覚は変らぬばかりか、さらに磨き上げられたのでしょう。畑に捨てられた蕪を眺めても、夕日に照らされた薄のひと株を見ても、朽ちてゆく落葉にさえも、神泉は宇宙の姿をそこに感じ取ったのです。想えば、〈後苑雨後〉の透き通るような白の牡丹は、単に描くべき題材として探し求めた花ではなく、誘われるように辿り着いた神泉の牡丹ではなかったでしょうか。

た一方、西洋の近代美術の新しい理念である個性の尊重・発露を熱烈に説く欧州留学帰りの美学・美術史の教授たちから、教えを受けたのです。先生たちの教えを十全に吸収した神泉ら若い画家たちは、さまざまな試行錯誤や時代の制約を受けながらも、困難な時期を乗り越えて、また、戦後の新しい海外からの風も味方に加えて、それぞれ独自の表現を確立していったのです。

昭和二十年代後半の神泉の作風を、最も典型的に表しているのは、昭和二十八年、第八回日展に出品された〈池〉ではないでしょうか。京都の寺院の池などによく見られる、青い藻が一面に繁茂した水面。その水の中から若い蓮の葉が二、三茎伸びて葉を開く。まだ涼気の残る夏の朝の光景です。ただ三枚の蓮の葉と黄緑に濁った水。それだけの作品です。

どんな神様なのかと。荒神口通の西端に「日本最初清三宝大荒神尊」と彫られた石標が見えます。ここが清荒神三宝尊を祀る「護浄院」で、通り名や橋もこれに由来するのです。荒神は火伏せの神として信仰され、今も台所にその御札が貼られております。奈良時代の末、光仁天皇の御代に摂津勝尾山に祀られた八面八臂の恐ろしい形相をした三宝荒神が始まりで、室町時代の初め、後小松天皇の勅命によって京都へ移され、のち慶長五年（一六〇〇）に現在の地へ移されました。天台宗延暦寺派の寺院ですが、流造風の本殿の前には石鳥居があって神仏習合の名残りを止めています。室町時代の宮中の記録『お湯殿の上の日記』などには、女官が清荒神に代参して御札を受けた記事が度々見られます。

清荒神護浄院

初めて「荒神口通」とか「荒神橋」という地名を聞くと驚かれるようです。「荒れた神」なんて、

法成寺址

清荒神の向かい側、京都府立鴨沂高等学校の北運動場の塀のところに「従是東北　法成寺址」の石標が立っています。法成寺は、御堂関白といわれた藤原道長が寛仁四年（一〇二〇）に土御門殿の東に創建した、阿弥陀信仰による壮大な寺です。阿弥陀堂には金色の九体の阿弥陀仏を安置し、多くの堂塔が建ち並んでいました。道長は万寿四年（一〇二七）、阿弥陀如来の指と結んだ五色の糸によっ

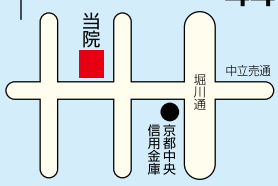
法成寺址

いつも新しい感動を

京都ブライトンホテルは京都御所の西、閑静な住宅街にあります。
ここは、千利休や武者小路千家官休庵に代表される茶の湯文化の中心地。
この場所にふさわしく、新しい文化発信基地となれるようよりよい商品とサービスを提供し続けてまいります。

京都ブライトンホテル
〒602-8071　京都市上京区新町通中立売（御所西）
Tel.075-441-4411（代）　Fax.075-431-2360
http://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/

耳鼻咽喉科
鈴木医院
京都市上京区中立売通堀川西入
441-0675



診察時間　午前9時～12時
午後4時半～7時半

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	×	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	×	×

祝休診

て極楽往生しました。

その後、火災や地震によって荒廃しながらも九体仏は残っていたことを兼好法師が『徒然草』に書き残していますが、南北朝時代には完全に廃墟と化しました。鴨沂高校の体育館や屋内プールの建設工事の際には古瓦などが出土しましたが、今なおその全貌を知ることができません。北運動場を発掘されることがあればと期待するものです。

荒神橋

荒神口通の東端は荒神橋を渡って白川街道へとつながります。この道の西端は豊臣秀吉が築いた御土居の口で、七口の一つでした。今の荒神橋は大正三年に架けられた古い橋ですが、その歴史もつぎはぎだらけです。

もともと鴨川には永久橋は少なく、東海道につながる三条と五条の橋だけは石の橋脚で、欄干には銅製の擬宝珠（ぎぼし）が置かれました。擬宝珠が用いられるのは、御公儀橋（ごこうぎばし）という公の橋の場合でした。鴨川のその他の橋は中州に架けられた簡素な木橋で、水害に流されるのが常でした。そのため荷車は橋を渡れませんから、その脇に川へ下りる車道（くるまみち）が設けられていました。荒神橋では今も南側に車道が残っています。

慶応三年（一八六七）に荒神橋は石の橋脚に擬宝珠付の永久橋として架橋されます。これは御所の災害に際し天皇が聖護院の仮皇居へ避難されるために御公儀橋となったのです。ただし、平常時も庶民の通行は許されますが、荷車は通ることができませんでした。そのため、荷車は川を渡ったのです。明治初年の荒神橋の写真が残っていますが、そこには擬宝珠付の立派な橋の下に牛が牽（ひ）く荷車が写っています。

今の荒神橋は昭和十年六月の鴨川大水害で中央部が流されてしまい、それを応急修理として木橋でつなぎました。横から見るとコンクリートを木で接（つ）いだ珍妙な橋でした。その後二十年余、昭和三十年代にこの部分が台風の洪水で流されましたが、架け替えることもなく、コンクリートでつなぎ、その後、歩道を拡幅して今に至っているのです。橋の両端の大きな石の親柱には堂々と「荒神橋」「くわうじんばし」の文字が今にその格式を伝えています。

荒神橋

白川街道

荒神口は街道の出入口として大

香木・薫香・薬種　輸入製造
香
山田松香木店
〒602-8014
京都市上京区勘解由小路町164（御所西）
TEL 075-441-4694
FAX 075-431-7879

ぼたん鍋と京料理
元祖
畑かく
京・上御霊前烏丸西
☎〇七五・四四一・〇六一〇代

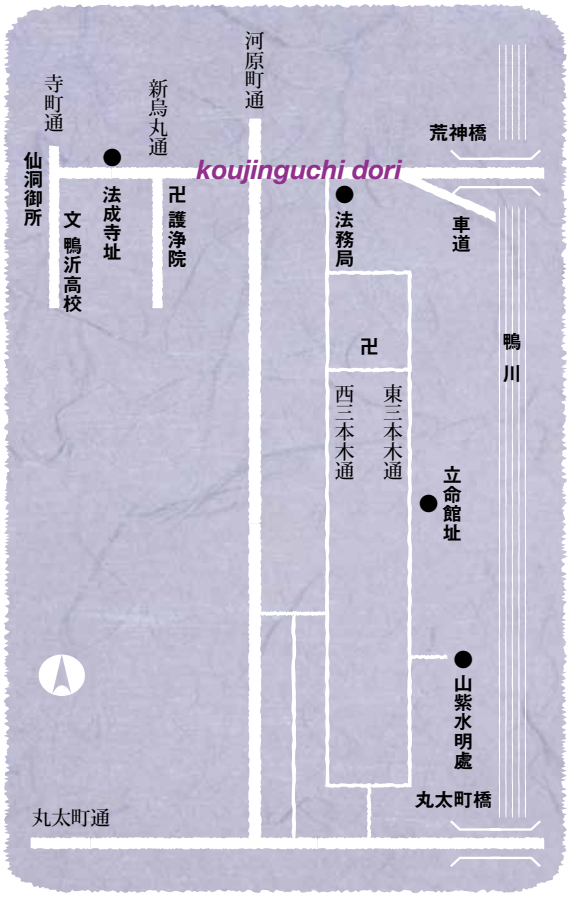
●表紙の題字　吉川蕉仙先生

きな役割を果たしていました。鴨川を渡り、川端通を北へ行くと二本目の道が、うねうねと曲がりながら北東の方向へと向かいます。街道は歩いても退屈しないように直線でないのが普通で、典型的な姿を今に伝えています。近衛通や東一条通は近代の都市計画によって設けられた道ですから直線になっています。

白川街道は志賀越（しがごえ）とか坂本越ともいい、東山を越えることから山中越の名でも呼ばれます。東北の方向に延びた白川街道は、東大路と東一条の交点に出ます。この東北角に鉄枠で保護された痛々しい道標があります。宝永六年（一七〇九）に沢村道範が立てたもので、後記する北白川の道標とともに京都市の指定登録文化財になっています。ここから東は京都大学の構内となり、白川街道は消えてしまいます。今出川通の北白川バス停のところで吉田山の北麓と接しますが、そこには石仏の巨体がどっしりと座っております。その脇に嘉永二年（一八四九）の秀麗な文字を白川の石工権左衛門が刻んだ道標があり、ここから白川街道は今出川通を斜めに横切り、北白川の集落を抜けて、比叡山と大文字山の鞍部を大津へと抜けるのです。京大構内の白川街道は文久二年（一八六二）に尾州屋敷ができるに至って廃絶しました。今も学舎の工事中に道の痕跡が見つかっています。

（出雲路敬直）

荒神口車道



柔道圓心道場
〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210
TEL（075）441-1968／FAX（075）441-2972

山崎接骨院
〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西入上ル相国寺西門前町 647
TEL（075）451-6050／FAX（075）451-6051
http://www.enshin.sakura.ne.jp/

新・古茶道美術品
清昌堂
やました
京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
〒602-0061 TEL（075）431-1366
FAX（075）431-1370
東京店・東京都新宿区市谷甲良町1-8
〒162-0856 TEL（03）5261-4566
FAX（03）3235-5677

東三本木のこと

区民からの投稿

髙木　清

東三本木通、いつかものの本を見ていたらこの通りに縁のある話が少なからず目にとまりました。こんなにいろいろな話のある通りも珍しいと思います。それも歴史的に意味のある人、そして話がです。

そういえば、私はかつて学生の頃、この通りに御厄介をおかけしておりました。いつかは頼山陽のことのみを私なりにまとめさせていただきました。

それだけでは足りないとばかりに、今回、東三本木全体について私の気づいたところを、ここにまとめてみました。いま東三本木通を通りますと静寂な通りです。しかし、こうして振り向いてみますと歴史的にも趣きのある通りです。それぞれの人の、この通りの情緒あるかつての町並みと、そして東側の景色での生き様を思ってみるのも悪くないのかも知れません。

東三本木通のいわれ

上京区丸太町橋西入上ルで、東よりが東三本木、西よりが西三本木、元は東洞院出水から夷川までを三本木何丁目と呼んでいました。その一丁目から三丁目が、宝永五年（一七〇八）に大火があり、皇居拡張に際し、替地としてこの所に上之町、中之町、南之町として定められました。従って元は新三本木といっていたようです。

明治三年から九年までは遊宴の地といわれ、舞妓の人も多く、幕末には料亭吉田屋（旅館大和屋）、上井筒、大岩、月波楼など六、七軒がありました。幾松と桂小五郎の逸話のほか、新撰組の近藤勇と駒野と、また大政奉還の立役者、後藤象二郎も〝いろ〟という女性と親しくなった逸話もあるようです。なお、竹村俊則『昭和京都名所図会（五）洛中』によると、「大和屋」は「清輝楼」の後身であって、その南の湯浅邸（現在のディアステージ上京鴨川）が「吉田屋」の址で、「清輝楼」はのちに席貸「茨木屋」となり、大正年間には洋食屋「あずまや」となり、昭和二年に「大和屋」となったとも伝えるとあります。

吉田屋など

吉田屋は中之町東側にあった料亭で、幕末の頃、勤皇の志士の密会によく利用されました。慶応三年（一八六七）六月二十三日には、坂本龍馬と中岡慎太郎、西郷隆盛、大久保利通、後藤象二郎も出席し

¥2,500で食べ放題＋¥480で飲み放題!!
プランディアのディナーブッフェ
"PRANDIA" DINNER BUFFET
京都ロイヤルホテル＆スパ1階のレストラン"プランディア"のディナーブッフェがリニューアル!! 人気のローストビーフのカッティングを含む約30種類のお料理が食べ放題で¥2,500、さらに4種類のアルコール飲み放題が＋¥480。両方あわせてもお1人様¥2,980! ぜひお気軽にご利用ください!!
毎日 17:30〜21:00 (90分制:17:30〜/18:00〜/19:30〜)
お1人様 食べ放題 ¥2,500 & 飲み放題¥480
※表記料金にはすべて税金・サービス料を含んでおります　※ご予約優先
ご予約・お問合せ:レストラン"プランディア" Tel.075-223-8973(直通)
地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分
京都ロイヤルホテル & スパ

た薩摩・土佐両藩の「薩土盟約」（大政奉還を建白することに同意）がここで成立しました。また地下には鴨川の河原に抜ける通路がありました。

『幕末維新地図』には三本木通に「岡中川屋敷」とあります。これは私の勉強不足でよく分かりませんが、その北に山階宮（やましなのみや）があったとの表示からすると、その南に中川宮の屋敷があったのでしょうか。宝永五年（一七〇八）に御所から門跡、公家、京屋敷、御所役人が新三本木に転居したことからすると、上の私の推測もあながち間違っていないと思います。

寛政三年（一七九一）には東三本木通で大田垣蓮月尼が生まれています。父は伊賀上野の城主藤堂金七郎、母はつややかな女性でしたが、蓮月（誠（のぶ））は父や母と呼べませんでした。そこで養父となったのは知恩院の寺侍、大田垣光古（みつひさ）です。結婚はしたが、四人（三人ともいう）の子や夫を失ったりした後も子を失い、三十三歳の秋に出家して蓮月と名乗ります。書・詩・陶器（蓮月焼）、舞、碁に堪能で、勤皇の志士と交友し、幕末の文人画家富岡鉄斎を育てました。知恩院山内の庵から岡崎、聖護院、最後は神光院（西賀茂の茶所）に住み、「願わくはのちの蓮（はちす）の花の上に曇らぬ月を見るよしもがな」の辞世を残し、明治八年（一八七五）十二月十日に八十五歳で亡くなり、神光院に墓があります。

また笛と踊の名手であった二代目幾松（いくまつ）が東三本木で働いていました。幾松は天保十四年（一八四三）に生まれ、幕末の志士桂小五郎（木戸孝允）と親しくし、やがて夫婦となります。（幾松は小五郎の十歳下）幾松は幾度も小五郎の危難を助けました。

頼山陽と山紫水明處

山紫水明處には頼山陽が住んでいました。

頼山陽は、江戸時代の末期の儒学者・歴史家・漢詩人で、幕末の尊皇思想に影響を与えた人物です。他面では放蕩、奇行の人という人もあります。山陽は安永九年（一七八〇）十二月二十七日に大阪江戸堀で父春水、母梅颸（ばいし）の間に生まれ、広島へ転居、名は襄（のぼる）、三十六峯外史とも号しました。寛政十三年（一八〇一）二十一歳の時に広島藩を脱藩しますが連れ戻され軟禁、その間に『日本外史』の構想を練り、文化五年（一八〇八）に稿成り、詩作に専念します。

文化八年に京へ出て塾を開きます。新町丸太町上ル、車屋町御池上ル、二条高倉東入、木屋町二条下ルの川床敷（二年間）、両替町押小路上ル、木屋町二条下ルの川床敷の水西荘と転々とし、ここを山紫水明處と名付けます。文政五年（一八二二）に東三本木通の敷地を購入し、家を建てて移ります。文政十一年、水西荘・山紫水明處の建物を建てます。天保三年（一八三二）に胸の病を患いながらも、山紫水明處で『日本外史』

山紫水明處入口

を仕上げ、『日本政記』の筆をとります。（『通議』と合わせ「歴史書三部作」）『日本外史』（武家の歴史を説き、儒教の名分論から独自の尊皇思想を展開したもの）は当時のベストセラーとして幕末の尊皇思想に影響を与えました。

「山紫水明處」の出典は、唐の王勃が『騰王閣』の序に「煙光凝ツテ而暮山紫」の春の夕暮れを叙した句と、杜甫の詩「残夜水明楼」の夏の景色を述べた句からです。

鴨川の西岸にある東三本木丸太町上ルの家屋敷を総称して「水西荘」といい、その内の離家を「山紫水明處」といいます。山陽は気に入り、ここより東の眺めを「関白我也」と記しており、山紫水明處には没するまでの十一年間住みました。当時は鴨川が水西荘のすぐ側を流れており、山陽はその鴨川で筆を洗ったと伝えます。

山紫水明處の建物は文政十一年（一八二八）、山陽四十九歳の時に建てました。その建物は葛屋葺の入母屋造で、軒先を桟瓦で葺いており、室は四畳半の主室と二畳の次の間及び半坪強の板の間の水屋からなり、鴨川沿いに縁側があります。天井は阿家形の葭張りです。縁側から見る鴨川の流れ、東山の風景はいかばかりであったか。床脇は三段に分かれ、その内の下部の西戸を開けて網代戸を開けると、中庭の樹や石や降り井も見え、涼風が入ります。中庭に簡単な蹲踞があり、水屋に茶室式の流しもありますが、これは後に改造されたもので山陽当時のものでないとされています。

敷地は水西荘の主屋を含めると八八一平方メートル（二六七坪）ですが、山紫水明處の敷地は一九八平方メートル（六六坪）、水西荘は明治中頃に取り壊され、新しく建物を建て現在は借家の敷地となっています。

山陽が建てた当時の山紫水明處の屋根は四畳半の上が東西の棟のある入母屋となり、これと直角に二畳の上の屋根があって軒先は桟瓦でした。その後、明治四十五年頃に山陽の孫の頼三潔氏が屋根を葺き替え、一文字の形の現況となりました。大正十一年に国の史跡の指定を受け、財団法人頼山陽旧跡保存会が管理しています。

敷地内の「降り井」は深さ二メートル、この井戸は山陽の頃はなかったといわれますが、今ほど

山紫水明處

深くはないにしても水をたたえていたこと、山陽も何らかに使っていたと思いたいものです。

山陽の交友

山陽は二十歳で淳子（十五歳）を娶りますが後に離婚したようです。文化十二年（一八一五）に三十六歳で梨影（十八歳）と結婚、子は長男成一、二男辰蔵は夭逝、三男支峰、四男三樹三郎、長女お陽の五人でした。妻梨影は近江国蒲生郡西大路の機屋喜兵衛の娘で、山陽の主治医小石元瑞のお手伝いに入りましたが、そこで山陽が知り一度で好意を抱き、小石元瑞を仮親として結婚、良妻賢母、そのことで表彰され「近江の女性の鑑」といわれました。安政二年（一八五五）五十九歳で没します。

もう一人、江馬細香（一七八七～一八六一）という女性がおりました。細香は美濃国大垣の医師で詩人の江馬蘭斎の子で詩人でした。文化十一年頃、山陽が細香に求婚しますが、父蘭斎に拒絶されます。しかし、細香はその後も山陽を思い続け、漢詩の添削をしてもらい、京都にも来て山陽に会い、山陽は細香を嵐山などに案内します。山陽没後も山陽の家族との交際があり、山陽を語るときに無視できない漢詩人であり女性の弟子です。山陽と細香は二十年間に八度の逢瀬があったといい、詩集に『湘夢遺稿』、山陽と細香の思いの漢詩も残されています。生涯独身で七十五歳で没、大垣に祖孫の家が、また禅桂寺に父子の墓があります。

山陽と交友のあった主な人々には、門人村瀬藤城、江戸での師の尾藤二洲、国文学者の梁川星巌（一七八九～一八五八）、その妻の漢詩人の梁川紅蘭（一八〇四～一八七九）、陶芸家の青木木米（一七六九～一八三三）、南画家の田能村竹田（一七七七～一八三五）、陽明学者の大塩平八郎（一七九二～一八三七、大塩の乱）、主治医の小石元瑞などがおりました。

山紫水明處から東の眺めの鴨川の対岸には柳があり、すぐそこを流れていました。丸太町橋は中州まで架かり、中州を少し歩いて再び橋がありました。川を挟んで対岸には梁川星巌が「鴨沂小隠」を構えていました。

山陽の好物は一日三合くらい飲んだという酒と煎茶で、文人らと酒飯を味わい、茶を飲み、作詩、作画、揮毫を楽しんでいたようです。

墓は遺言により東山長楽寺本堂の山（長楽山）に、頼山陽の墓碑が立ち、妻梨影、子三樹三郎の墓もあります。

なお、四男頼三樹三郎は文政八年（一八二五）に東三本木に生まれ、幕末の尊攘派志士、儒者として、梁川星巌、梅田雲浜と親交を結び、開港条約勅許、将軍継嗣問題で幕政を批判、安政六年（一八五九）に安政の大獄で処刑されます。

立命館草創の地ほか

立命館は清輝楼を仮校舎として明治三十三年（一九〇〇）、夜間授業で開校しました。その跡地には記念碑が立てられています。草創には日本の「世界のなかの一員」を説く中川小十郎の力が大とされます。

志賀直哉（一八八三～一九七一）の『暗夜行路』には、主人公の時

和光印刷株式会社
〒602-0012 京都・烏丸通上御霊前上ル TEL.075-441-5408㈹
E-mail:info@wako-print.co.jp

任謙作が初めて京都に着き、鴨川畔の東三本木通の宿「信楽」（山紫水明處の少し北にあったといい、与謝野晶子、上田敏、武者小路実篤らが泊まりました。）で過ごしたといいます。

「…鴨川をへだてて窓からは見はるかす東山、近くに黒谷、左に吉田山。そしてさらに、遠く比叡の峰…自然との調和が悲劇を背負った心にゆとりをしみ込ませたのだ。…直子との出会いはそんなところだ…。」

直哉が松江の仮遇から南禅寺北の坊に移ったのは大正三年九月のことで、直哉ら白樺派同人の会合に「信楽」が利用されたといいます。

竹内栖鳳の師匠の幸野梅（棋）嶺（一八四四～一八九五）が、東三本木の吉田屋に住んでいたことがあったようです。梅嶺は新町四条下ルに生まれ、幕末に十六歳で画塾を開設、上村松園も彼の画風に学んだといいます。

江戸後期の漢詩人、狂詩作者の中島棕隠（一七八〇～一八五六）も東三本木に住み、安政・天保年間の京都において、頼山陽と並ぶ詩名があり、風流好書をもって知られました。

歌人・詩人の与謝野晶子（一八七八～一九四二）は従軍の弟を思い「君死にたまふことなかれ」の詩で知られますが、京都府立第一高女の在学中の妹に会うためにしばしば京都を訪ねましたが、その時宿舎にしていたのが信楽旅館でした。

立命館の記念碑（吉田屋の旧姿）

おしまいに

たった一筋の通り、東三本木、そこにこんなにも沢山の歴史やお話があります。その東三本木が上京区にあることが嬉しい。

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター
公益社

本　　社／京都市中京区烏丸通三条下ル ☎(075)221-4000
フリーダイヤル 0120-00-4200 http://www.koekisha-kyoto.com

◆ 葬 儀 式 場 ◆

北ブライトホール（堀川紫明）京都市北区紫明通堀川東入ル ☎(075)414-0420
中央ブライトホール（五条大和大路）京都市東山区五条通大和大路 ☎(075)551-5555
南ブライトホール（堀川八条）京都市南区堀川通八条下ル ☎(075)662-0042
西ブライトホール（五条西大路）京都市右京区五条通西大路西入ル ☎(075)322-0042
山科ブライトホール（五条外環）京都市山科区五条通外環状線東入ル ☎(075)595-0042
烏丸ブライトホール（因幡薬師）京都市下京区烏丸高辻南入東入 ☎(075)351-7724
宇治ブライトホール（宇治槇島）宇治市槇島町（京都文教大学前）☎(0774)20-0042
滋賀ブライトホール（大　　津）大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042

The Reizei Family and Kyoto Imperial Palace

冷泉家と御所（其の二）

公益財団法人冷泉家時雨亭文庫
常務理事　冷泉貴実子

江戸時代、上京には御所を中心にして五摂家を配し、その周辺に公家のうち家格の高い家から低い家、さらにはそれに仕える家、出入りの商工人の家と、御所関係の家が軒を連ねる公家町があった。

そこに住む人々は、どんな生活をしていたのであろう。

天皇は祭政一致の古代、祭りをして国を治める政治家だった。江戸時代、第一の政治家は江戸幕府の将軍で、地方には大名という政治家がいた。では天皇は何をしていたのか。

年中行事をする人。それが私の見解だ。

祭政の祭だけが御所に残り、それを行い続けていた。何故それをしていたのか。理由はない。昔からしていたから。父も行っていたから、祖父も行っていたから、いや平安時代の何天皇の頃よりとか、いやいや唐の都長安では、などとその起源は色々あるだろうけれど、結局昔からやっていたから、というのが理由だ。

この国には陰陽道の思想があった。積極的な性格を持つものを陽とし、消極的なものを陰とする。陰と陽が合わされて、一つのものになるという哲学である。めでたき方はもちろん、陽。

陽は太陽で、陰は月。男が陽で女が陰。

数字にも陰陽があった。奇数が陽で偶数が陰。だから奇数が重なる一月一日は正月（一月七日を数える説もある）。三月三日は桃の節句、五月五日端午の節句。七月七日七夕、九月九日重陽の節句とめでたい日が続く。

そういう日を中心として、御所では様々な行事が展開した。祭祀が行われ、和歌会が開かれ、雅楽が演奏された。それはまさに、この時代の文化であり、上方文化の

現代の蹴鞠（白峯神宮）

核であった。

そこから流れ出た文化が、武士に入れば武士風に変化し、寺に入れば寺風に、町では町衆風に変って行った。それはまさに全国のあこがれの中心文化だった。

今も続く冷泉家の和歌会

御所の行事はすべて、伝統に立脚したやり方があった。例えば、位によって袍の色が異り、行事によって冠が異り、階段の昇り方から、足の出し方まで、色々の約束があった。その起源は最早誰も知る由のない、遠い昔からの約束事である。それを有職故実という。

行事の中心は天皇。公家衆は補佐役。行事を行うことが仕事であり、そのやり方に精通するのが公家の任務であった。有職故実の専門家である。それは徳川幕府の対公家衆政策でもあった。

そのうちに公家の家々は専門が分かれて行く。家業の成立だ。例えば山科家や高倉家は、衣紋という装束着用方法を司る家。白川家は宮中祭祀の家。三条家は笛、勧修寺家は儒学、飛鳥井家は蹴鞠と和歌等々。

公家衆は互いに家業を教え、また習った。例えば、明日の行事のため、山科家へ衣紋を学びに行くという風に。御所の文化が高い位置にあった故、それはやがて、武士や町人が学ぶものにもなった。こうして家業をもつ公家は、家元になったのである。

今私達は、家元というと茶道や華道を思い出すが、その始まりは公家の家業である。

では何故、その家にその家業が定着したかというと、結局は先祖にその業に秀でた人がいたことによる。

千利休を先祖に持つ千家、名優団十郎を先祖に持つ市川家と考えれば容易に理解できる。

そこで冷泉家はもち論、藤原俊成、定家を祖に持つ和歌の家として成立した。宮中の和歌会を飛鳥井家などと共に司ると同時に、全国に門人を持った。将軍から大名、大商人まで。通信教育によって全国への文化発信が行われていた。

公家は京の近郊に、幕府に認められた所領を持ち、何人かの家司と呼ばれるより下級の公家衆を家来として従え、また自らは、摂家のようなより上級の公家に仕えた。

宮中に数日間隔で出仕し、夜勤も行う。決まった節会には、有職故実に従い参仕し、相変らずの儀式をとり行った。

家庭には、正室の外、家女房もいた。子供は、長男以外は領地の庄屋などで育てられ、長じては、男子も他家の養子や僧侶とするのが普通だった。

上京茶会

恒例の「上京茶会」が五月六日、大徳寺塔頭芳春院を会場に、表千家の懸釜で開催されました。

金閣・銀閣・飛雲閣と並び京の四閣と称されている「呑湖閣（どんこかく）」を眺めながらの本席と、枯山水の石庭「花岸庭」を眺めながら床几に座っていただく副席の二席でお茶を味わい、雨上がりに映える緑の中、贅沢な時間を過ごしていただきました。

上京区憲法月間「映画のつどい」

5月の憲法月間にあわせ、同志社大学寒梅館において、映画『ふたたび』『アントキノイノチ』が上映されました。

今回も、日本語字幕と音声ガイドによる場面ごとの説明がついた「ユニバーサル上映」を行い、視覚や聴覚に障害のある方やご高齢の方も含め、みなさんがともに映画を楽しむことができました。

会場には一部・二部あわせて約960名の方が来場され、家族の絆や命の尊厳の大切さについて理解を深めていただく機会となりました。

みんなで花を咲かそう活動

日頃から熱心に手入れを続けているボランティアの皆さんの手によって、区役所玄関前の草花がきれいに咲き誇り，庁舎に彩りを添えています。ウサギやクマなどの形に剪定されたゴールドクレストも，愛らしい姿で来庁者の目を楽しませています。区役所にお越しの際は、これらの花々にも目を向けてみてください。

この活動に興味があり、継続して水やりなどの手入れをしていただける方は、区役所地域力推進室まちづくり推進担当までお気軽にお問合わせください。

（電話441−5040）

苔玉アレンジメント講習会

小さな多肉植物を使い，インテリアとしても人気の高い苔玉を作る「アレンジメント講習会」が3月10日に上京区役所において開催されました。

講師に NPO 法人フラワーアーティスト育成協会理事の辻井康雄氏をお招きし、参加者は手のひらサイズの可愛らしい苔玉を、和気あいあいと楽しく作り上げました。

宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

あじわい
¥5,000(税サ込)

ホテル
ルビノ京都堀川

〒602-8056　京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161㈹　FAX 075-432-6160
http://www.rubino.gr.jp/

レストラン
11:30〜14:00
毎週日曜日はお得なランチバイキングをしております
おひとり
¥1,500(税込)

http://www.hanakobo.co.jp
フリーダイヤル　0120−46−8700

FLOWER OFFICE
花工房
®

大切な方への御供えのお花、お誕生日、御祝のお花、
結婚式のブーケなど心に残る記念日を
お花で彩るお手伝いをさせていただきます。

花工房　京都本店　　京都市烏丸通今出川下ル
TEL 075−414−8700　FAX 075−414−7787

●神学部
●文学部
●社会学部
●法学部
●経済学部
●商学部
●政策学部
●文化情報学部
●理工学部
●生命医科学部
●スポーツ健康科学部
●心理学部
●グローバル・コミュニケーション学部
●グローバル地域文化学部(2013年4月開設)

Doshisha University
同志社大学
http://www.doshisha.ac.jp/

お問合せ先 同志社大学 企画部 広報室 広報課 TEL:(075)251-3120

酢一筋の商い、伝統の滋味。

伝統(きのう)から未来(あした)へ
京・西陣 孝太郎の酢
㈲林孝太郎醸酢
京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455
TEL(075)451-2071
FAX(075)451-8028

創立以来七十六年にわたって、和やかな家庭的な雰囲気に包まれつつ就学前教育の本流をめざして、保育を続けて参りました。幼児たちは楽しい遊びを通して、人生に必要な生きる力のすべてを手にします。

学校法人 北野幼稚園
京都市上京区御前通一条下る　(北野天満宮バス停下車南100m)
TEL.463-0111㈹
http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/

名物ゆどうふ
南禅寺 順正
JUNSEI

左京区南禅寺門前　電話 075-761-2311
http://www.to-fu.co.jp

「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。（TEL441−5040）
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。

表紙／京都御所建礼門　小谷一之　撮影

洋菓子 マールブランシュ 北山本店
〒603-8053 京都市北区北山通植物園北門前 TEL(075)722-3399・FAX(075)702-9440
9:00AM～9:00PM 年中無休(喫茶10:00AM～8:30PM) http://www.malebranche.co.jp/

ご希望のカタログをお電話でお申込ください。
複数選択可

1 住まいのメンテナンス編

2 屋根・外壁リフォーム

3 水廻りリフォーム

4 ECOリフォーム

5 高齢者対応(ユニバーサルデザイン)

6 外構・造園リフォーム

7 ホームイング実例集

8 ミサワホーム総合カタログ

MISAWA 住まいを通じて生涯のおつきあい
ミサワホームイング近畿 京都営業部
〒604-0022 京都市中京区室町通御池上る御池之町323 075(211)3241

■お申込はこちら
0120-330-937
火・水曜日 定休　受付時間 AM10:00～PM6:30

上京
史蹟と文化

2012 VOL.43